

# 甲田の裾

KŌDA NO SUSO



冬の使者たち

2021

1号

通巻704号

松丘保養園の機関誌



# 謹賀新年



本年もよろしくお願いたします  
松丘保養園 入園者 職員一同



コロナ禍の中各センターでは工夫を凝らして新年ムードを演出

## =「宅配思い出食堂」開催=



コロナ自粛中ですが食で活気  
づけたいと郷土料理の笹餅と  
エゴテンを宅配しました。



め〜 (美味しい) から  
け〜 (食べて〜)

めごい (かわいい)  
ふぐろだの〜。(袋ですね)

---

## 甲田の裾 令和3年1号 通巻704号 目次

---

2021年 新年にあたり

……………松丘保養園 園長 横山 慎 …… 2

令和3年の年頭にあたって

……………入園者自治会 会長 佐藤 勝 …… 5

講演録「昔、私はカップだった」……………滝田 十和男 …… 8

俳句・川柳……………木村 伯龍 ……18

特集 集中豪雪……………19

親分……………中央センター2階 介護員 木村 健一 ……23

社会交流会館だより

……………社会交流会館 学芸員 澤田 大介 ……29

自治会日誌・編集後記……………32

表紙写真：「冬の使者たち」

園の東、三内霊園側の沼には、かつて何十羽もの白鳥が飛来しました。上流の開発により「沼」が「川」に変わってしまいましたが、今年も5羽の白鳥が姿を見せてくれました。

写真提供：福祉室

# 二〇二一年 新年にあたり

国立療養所松丘保養園 園長 横山 慎

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

皆様には、ご健勝にて新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

二〇一九年十二月に中国の武漢で発生したコロナウイルス感染症は二〇二〇年の春には季節性インフルエンザのように終息に向かうものと淡い期待を抱いておりましたが、その後の経過は皆様ご存知の通り、現在に至るまで世界中で感染拡大が続いており、日本も例外ではありません。昨年の秋頃までは松丘保養園の所在地である青森県内でのコロナウイルスの感染者はごく少数で推移していましたが、二〇二〇年十月に県内で初めてのクラスターが発生してからは堰を切ったかのように県内各地で感染者が増加してきております。松丘保養園に於いても今

以上に徹底した感染対策が求められるところです。

昨年は例年定番で行われていた園内の行事やハンセン病の啓発啓蒙活動などの多くがコロナウイルス感染症の予防対策に関連して中止となっており、例年、新年度の最初の行事は春の「園内清掃クリーン運動」といって雪解け後に現れる、雪の下に眠っていた園内のゴミを清掃する作業から始まるのですが昨年は中止となりました。多くの地域住民のかたにも参加していただいている恒例の行事で入所者や職員との交流の機会となりました。

松丘保養園の園内には桜の木がたくさん植えられており、直径十センチメートル以上の木は三五八本あり幼木も入れると五〇〇本以上になると思われます。ちよつとしたお花見どころとなっており、春に

は「観桜会」が開催され地域住民の皆さんもたくさん参加されるのですが昨年は中止となりました。

啓発啓蒙活動のために県内各地で企画されているハンセン病パネル展（注1）もすべて中止となりました。夏には世界の火祭り「青森ねぶた祭」も中止となつてしまいました。例年入所者の皆様が観覧を楽しみにされている定番の行事でしたが今年開催できるのでしょうか？また園内で開催され入所者を始め老若男女、地域住民の皆さん、職員など多くの方々の交流の場となつている「納涼祭り」も中止となりました。

地元の小学校や中学校の生徒さんたちとの交流も一年を通じて全くできませんでした。生徒さんたちの学習発表会やコンサートなどにご招待していただいたり、生徒さんたちには保養園で行われるいろいろの行事に参加していただいておりますが昨年はずべて中止となりました。

毎年行われている看護学校の生徒さんたちの見学、実習や平内町の高校のマンドリンクラブの演奏会も中止となりました。宗教関係者の訪問などもほ

とんどご遠慮させていただいております。

松丘保養園の園内には樹齢百年を超える桜の木をはじめ多くの桜の木が植えられておりますが桜の木の健康を維持するため毎年樹木医の指導の下に「桜の木の根の治療」（注2）を行っております。この作業には入所者をはじめ地域にお住まいの皆様や小中学生、大学生などの皆様にも多数ご協力、応援していただいておりますが昨年はコロナウイルスの感染対策のため園のスタッフと若干名の入所者だけでの開催となりました。

このように例年行われている行事のほとんどが中止あるいは規模を縮小しての開催となりました。多くの方々の交流の場にもなっている行事でもありたいへん残念です。

現在、入所者の皆様にはご家族やご友人など園外から訪問される方々との面会をなるべく控えていただいたり、逆に園外への不要不急の外出も控えていただいております。

ショッピングセンターへの買い物ツアーや、フードコートでの外食など多くの入所者が楽しみにして

いるイベントも休止となっております。

例年、園内では入所者の皆様を対象にいろいろな行事やアトラクションが計画されておりましたが昨年はコロナウイルスの感染拡大に伴い万が一の園内での感染に備え、「三密」を避けるため多くの入所者や職員が参加するような行事はほとんどすべて休止となっております。

幸いに現在のところ松丘保養園ではコロナウイルスに感染した入所者や職員は一人もおりません。

コロナウイルスに対するウイルス干渉のためか、基本的な感染予防対策が効果を発揮している結果なのかは定かではありませんが季節性インフルエンザを発症された入所者や職員もおりません。

感染を避けるためには園外の方との接触をひたすら避けることに勝るものはないと思われませんが、社会的な生活を送られている方々にとつては非常に困難なことです。コロナウイルスのワクチン接種の恩恵にあずかるのもまだまだ先の話です。これからの正念場です。

ご不便をおかけし大変申し訳ありませんが入所者、

職員の皆様には改めて嚴重な感染対策の徹底をお願いするものであります。

入所者の皆様の健康が案じられます。コロナウイルス感染症が一日も早く終息し、入所者の皆様の生活が安らかになるよう念願しています。

令和三年一月

(注1) 主に写真を展示し園の歴史や入所者の

生活などをご紹介しています。

(注2) 桜の根を掘り起こし肥料や薬剤を散布

します。

# 令和三年の年頭にあたって

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

会員の皆様、職員の皆様のご協力とご指導を賜りながら新年を迎えることが出来ましたこと、衷心よりお礼申し上げます。

昨年初頭より、武漢で発生した新型コロナウイルス感染症は今年になっても未だ衰えを見せていません。さらにここに来て変異したコロナウイルスまで確認されてきており、いつになつたら終息を迎えることが出来るのかと周囲からため息が漏れ聞こえるようになって来ました。

本来、新たな年の始まりは、気持ちの切り替え時期でもありますが、やはりまた今年も、昨年同様コロナ対策に追われる一年になりそうです。

昨年は各種行事が中止となつたり、面会者・来訪

入園者自治会 会長 佐藤 勝

者の制限をかけたりと皆様にご不便をおかけしました。

もしや春になつたら収まるのではないか、との淡い期待も消え今年も自粛生活を余儀なくされていくことになりそうです。

それに加えて、今年是全国的な厳冬であり、ここ松丘でも近年にない積雪を記録し除雪夫の方々がフル稼働しても間に合わず、屋外公衆トイレの軒が破損したり、小屋が雪の重みで傾いたり建物にも被害が出ております。

最高気温がお昼になつても氷点下のままのような日が何日も続いており、そのため不自由になつた会員の治療棟通いは、車イス送迎に頼るしかありません。しかし、降雪と凍てついた朝の送迎には、慣れ

たはずの北国人にとつても一苦労があるようです。そうなると、ロードヒーティングになつているとは言え、一人での送迎は無理であり二人の介護員が関わる事になります。このようなことは、雪国の療養所の宿命かも知れませんが乗り越えるしかないのです。忍耐と我慢の季節でもあります。

そこに追い打ちをかけるように、新型コロナウイルスは、せつかく深まってきていた地域社会との交流も妨げています。未だ先行きが不透明のままでは、行事の予定もたてられません、早く普通の日常を取り戻したいものです。

新型コロナウイルス感染予防のため、今年度の支部長会議は出張形式を取らず、オンラインによる会議になるとの報が入りました。その為一月二六日初めてのオンライン会議に向けてのテストが行われました。パソコン画面に映し出された各支部長は皆大先輩達ばかりであります。私は会長として初めての会議に臨むこととなりますので緊張感で一杯です。

二月二五日の本番当日が心配ですが、頑張るしかありません。

支部長会議では、将来構想や療養所の永続化問題を有識者会議での提案に沿って議論されます。

将来構想については一部の療養所を除いて、考えられていても実現に向けてはほとんど進んでいないのが実状です。将来構想は永続化と共に最も重要な問題であり、入所者に一番関わりのあることにもかかわらず一定の道筋が示されていないのです。

これまでの経緯を考えると全療協の議論だけで簡単に結論を出すのは難しいのですが、弁護士らによる有識者会議を設置し将来構想と永続化について検討していただき一定の方向性を示してもらうことは確認出来ております。その委員会の提言をどう扱うかオンライン会議で討議して決めていきたいと思えます。

今松丘で抱えている重要問題といったら副園長不在問題であります。また職員の設定削減問題は、ここでしか生きる術がない私達入園者にとつて最も関心が高いことは言うまでもありません。

今の私たちが秘かに楽しみにしている事は、やはり何と言つても桜の花が咲く頃です。一昨年になり



ますが、「ともに生きる」松丘保養園での交流を通して」という劇を演じてくれた新城小学校の生徒たちが、近隣町会の方々と一緒に百十年桜の「根の治療」に参加してくれました。あの時の桜が今年どのような見事な花を咲かしてくれるのか、それが楽しみです。あの時手伝ってくれた小学生は、今年の四月になると中学二年生になり、心身ともに成長したと思います。今、逢うことは出来ませんが、さらなる成長が楽しみです。また彼らも自分たちが関わった桜の花の咲く頃をきつと気にかけていることだと思います。

後は一日も早く、コロナウイルスの終息を願うばかりです。自治会活動の停滞は許されません。会員の皆様の為にも頑張っていくしかありません。その為には、諸先輩の方々のご指導とご協力程宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、新しい年がより良い一年になりますよう心から祈念し挨拶に代えさせて頂きま

す。  
(令和三年一月記)



新城小学校生徒も参加した桜の根の治療（令和元年10月29日）

滝田十和男講演録（平成二十六年八月八日、江渡上町会子供会一行園内見学会に於いて）

## 昔、私はカッパだった

滝田 十和男

私は松丘保養園では、男の入園者の中では一番早い昭和十二年に入っているんです。

今生きている人の中では一番早く入っているの、ちよつと昔の話をさせていただきます。

昔新城の川にカッパが棲んでいたんです。こうゆう話聞いたことありますか。本当なんです。カッパは丁度君達くらいの若い二人の男のカッパが棲んでたんです。カッパは人間に一番近い動物なんで一匹二匹と数えないで、一人二人と数えるんです。

丁度君達くらいの若い男の子で地域の人達に可愛がられていたんですけど、川の両岸、土手が崩れないようにと護岸工事をしてセメントで固めてしまったものですから棲むところがなくなってしまうんです。

それで松丘保養園と三内霊園の間に沼が三つあり

ますね。そこがとっても水が綺麗でカジカとかガヤとか小魚が沢山棲んでいましたし、カラス貝といって大きな貝もいるところでした。北海道と青森県にしか棲んでないという沢ガニという蟹も沢山いました。そんな沼でしたから、カッパの二人の男の子がこちらの沼に引越して来てこちらで暮らしていたんです。

ところがそのうちに、沼のずっと上の方で開発が進んで水がどんどん汚れてしまつて棲めなくなつてきたんです。で、どうしようもなくなつて丘にあがつて松丘保養園に入つて育つて大人になつてから、一人のカッパは青森で寿司屋さんを始めたんです。今「カッパ寿司」という寿司屋をやっています。

あとの残りの一人のカッパが私なんです。みてください、この腕カッパの腕と同じでしょう。そうい

うことで、カッパは凄く人間に近い動物で私達にも親しまれていたんですけど、私自身がカッパですから。という事で今日はお付き合いたいと思いません。

これから話す話は本当の話で、今までの話も本当の話ですが、これからの話も本当です。

この松丘保養園という病院、療養所は明治四十二年に建ったんです。なぜここに建ったかと言いますと、昔ら病と言つて凄く市民から嫌われて差別された病氣なんです。何故かと言うとその外見がひどく体に物が出来たり、出来物が破れて傷だらけになつてくさい臭いがしたり、眼が冒されて見えなくなつたり、喉が冒されて声が出なくなつて喉に穴を開けてカニューレというのを突っ込んでやつと呼吸して生きてる人が沢山いたんです。

そういう人達を政府は全国から集めて、日露戦争が終わつて外国人がドンドン入つて来るようになるという醜い人達を町や村に置くのはまかりならないと、全国に六ヶ所の療養所を作ると。東北六県と北海道を合わせて公立の療養所を一ヶ所に作ると

なつたときに、青森県が指定された訳です。で、青森県ではその当時警察が管轄でしたから、警察の偉い人達が県内いろんな所を探したけども適当な所が見つからない。大鰐に小さな病院があつてらい病患者を集めて治療していた病院があつたけれどもそこを療養所に利用しようと思ひましたけれど土地が狭く出来ない。浪岡もなかなかいいところだけども不便でずつと遠い。結局青森市に建てようということになつたんです。

なかなかいい土地がみつからないとなつた時に、これは全国の療養所が建つ時には必ず地元民から大きな反対があつたんです。醜い、差別、汚い、病人を収容するのはまかり成らんと地元の人達が箆旗を立ててデモ行進をやつて反対した訳です。ところが、松丘保養園に限つては石江の村の人達はそういう気持ち全然なくて、どうぞあいてる所の土地を使つてくださいと、受け入れてくれたんです。この土地は車も自動車も無かつた時代、どこの農家でも馬を飼つていたんです。馬の飼葉は草だったんです。草刈り場だったんですよ、石江の。広い所があるから、そこに建ててもいいよということになつ

て、全国でただ一ヶ所、地元の人がここに建ててく  
ださいとお願いして建てたところが松丘保養園なん  
ですよ。

今、全国十三ヶ所の療養所ありますけれど、どこ  
の療養所を建てる時も必ず地元の反対にあったんで  
す。

そういう中で、あんた方のおじいさん、おじいさ  
んのお父さん方が石江の自分たちの土地を使ってく  
ださいと、今一〇四年経ちましたけど、その一〇四  
年前にあんた方の先祖の方達がこの場所を無償で提  
供してくれたんです。そこで私達がここに居ること  
が出来たんです。地元ですから、いろいろ迷惑を掛  
けたんですけど、私が入院した頃は車も全然走って  
いませんでした。弘前方面からリングを運んでき  
て、帰りに青森から魚を積んだ荷馬車が一〇〇台も  
一五〇台もこの道路を通って行くんですよ。そうす  
ると雪で滑った馬車馬が転んで怪我するんですよ。  
怪我した馬は、もう使い物になりませんから、そう  
すると石江にリング畑が沢山あって家があんまりな  
くて、そこに一軒馬殺しの爺さんがいて、日の丸の  
旗を掲げる訳ですよ。それは馬殺しの爺さんが怪我

した馬を引き取って料理して、それを販売するの  
に、馬肉が出来たぞーというので知らせる旗を立て  
るんですよ。それが保養園からちょうど見えるんで  
すよ。それが保養園に馬肉を買ってもらいたい印な  
んですよ。それでこちらから馬肉を買いに行つて、  
百グラム七銭でした。七銭というのは、今の七千円  
か七百円かわかりませんが、そういう時代がありま  
した。そういう時代が長くずっと続いたんです。

らい病というのは、治す薬が全然無かつたんで  
す。日本中に何万という患者さんがいましたも。

ノルウエーのハンセンという医学者がらい菌を科  
学的に発見したんです。その名前をとつて今、ハン  
セン病と言っています。今らい病とは誰も言いませ  
ん。らい病というと偏見・差別の用語みたいになり  
ますからね。それで私達はハンセン病なんです。

何故今私が九十一歳まで生きることが出来たかと  
言うと、非常に有り難い環境ながら戦争前も戦争中  
も戦争後も非常に食糧不足でね、大変だったんで  
す。治療もあんまり出来なくて食糧もないんでバタ  
バタ死んでね。現在、松丘の納骨堂に納まつてる方  
だけでも一、四六〇人の方が開設以来亡くなつてい

るんです。これは、この病気で亡くなるよりも栄養失調で亡くなった人が戦争中は沢山いたんです。そういう時代が過ぎてても私がまだ健在でお世話になって生かして貰っているかと言うと、それはご存じの方もあるかと思いますが『プロミン』という特效薬が私達を救ってくれたんです。そのプロミンという注射をしたお陰で昭和二十四、五年から全国の療養所に薬が行き渡って、注射を始めて二、三年のうちには菌という菌が死んでしまつて、患者は後遺症として手足に残りますけど菌の働きが停止して、菌が無くなったわけです。

それでハンセン病はうつる病気だったけど、プロミンという薬が出て治療が始まつたために段々快方して体中傷だらけだった人が傷がすっかり綺麗に治つて、喉に穴を開けないと駄目だった人が、ご飯も食べられなかった人が鼻から呼吸して物を食べられるようになって、そして段々快方して昭和三〇年代になると恢復して社会復帰する人が出て来たんです。

そうなりますと一般社会でも患者の発生率がピタッと止まつて、ここ五〇年ほどは新患者が、入院

してくる人が居なくなつたんです。日本からは殆どハンセン病患者は療養所にいる人だけで在宅で苦しんでいるような人は居なくなつたんです。そういう幸運をもたらしてくれた人は青森市出身の石館守三先生という方なんです。みなさんは恐らく聞いているかも知れませんが、この方は東京大学の薬学部の部長さんだったんですけれど、この方が戦争後にアメリカの文化が入つて来てリーダーズダイジェストという雑誌が発行されたんですね。そのリーダーズダイジェストに、アメリカでは肺結核のために作つたプロミンという薬がハンセン病にも効くという記事が載つてたんです。それを見た石館先生がアメリカから資料を取り寄せて、それを合成してヨシトミ製薬という製薬会社に造らせてプロミンという薬が誕生して、多磨全生園に入院していた傷痕軍人、戦争に行つて病気になつて帰つて来た人に試しにやってみたところが二ヶ月のうちに体の傷が乾いてしまつて大変良くなつた訳なんです。ところが、この病気を治すために先生方がいろんな薬を試験的に造つて、戦争中にはセファランチンと云つて私も実際やりましたけど全然効かなかつたんです。

その沢山の医者が研究して造った薬も、中條資俊という偉大な園長先生が居ますけど、この人も非常に研究熱心で色んな薬を作りましたが、私もテストで注射されましたけど全然効かなかったんです。

ですが、今申し上げました石館守三先生の作ったプロミンという薬が、注射が始まると二ヶ月か三ヶ月してドンドン快復して菌が無くなってしまわないで。それで日本のハンセン病の歴史が一変に変わってしまったんです。

それが、日本の患者だけでなく、日本にも多いけどインド・アフリカ・南米・中国、そういう国々にも沢山、何万、何十、何百万という患者がいる訳です。そういう患者に日本の力で薬を製造して、笹川財団と言って競艇を管理する協会があるんですけど、その協会が援助をして、石館先生に援助を申し出て、世界中のインドとかアフリカへ薬を届ける運動が始まったんです。

その原点になったのが青森市だったんです。石館薬局の次男坊だった石館守三先生が中学生の時に、今の高校生だね、自転車の荷台に薬を積んで松丘保養園に配達に来たんです。その時の患者の顔、姿を

見て、「あー、こんなに気の毒な住民達を何とかして治してあげたいもんだ」と皆さんくらいの年から考えたそうです。それが薬剤師になり、薬剤の東大の薬剤部長まで務めたんですけど、日本で初めてプロミンをアメリカの資料を取り寄せ薬を合成したのが、世界中に広まって、世界中に何百万といった患者が今はほとんど少なくなってきたんです。日本から送り届けたプロミンによって。日本のハンセン病を無くす為に世界中の、元々はアメリカで造った薬ですけど、それを日本に資料だけ持ってきて始めから造って治療を始めたのが、青森市出身の石館守三なんです。この方は若い時からクリスチャンとして熱心なクリスト教信者でしたから、一人でも多くの人を救いたいというので、子供の時から思っていた、ハンセン病患者を悲しみ苦しみから救いたいと造ったプロミンが今世界中に広まっているんです。

だから、皆さんが住んでいる石江地区は石館先生が自転車で、その頃は舗装もなにもされてませんが、砂利道でしたから県道はね、そこを通過して松丘保養園に薬を配達した。配達に来た薬は何の薬だったかと言うと「シンク油(ゆ)」という油薬(あぶ

らぐすり)で患者の傷口を治す薬だったんです。その薬を届けに来て患者の姿を見て、何とかして治してやりたいという精神がずっと続いて、ついに世界のハンセン病を閉塞させてしまったんです。新患者出ないようにして、また新患者出る時があるかも知れませんが、殆どの国が今出ないようになっていくんです。ですから私達が今現在一〇三人入園者いますけど、一人もらい菌を持っていく人がいないんです。プロミンのお陰でね、全快してますからね。だから暮らしが悪くなつてから菌が無くなつたために壊死したところは回復しませんから後遺症として残っています。ですから社会復帰も出来ないでここでお世話になって九〇歳まで生かして貰っているんです。ここでは九〇歳以上の人が沢山います。青森県では今短命県返上という運動をしていますけど、モデルケースになるんじゃないかと思うんですよ、松丘保養園は長寿者が一杯いますから。若い人もいません。皆さんのような若い人を見かけることはありません。それほど年寄りの天国です。世界中の療養所もそういう傾向になって来ています、日本だけでなくね。

その原因を作ってくれた石館先生が青森市の出身だということ、青森市では伝記をマンガ本にして市内の学校に全部配った。石江の学校も新城の学校も図書室に必ずマンガ本が、「石館守三」という本がありますから、読んでハンセン病とはこういう病気だったんだと、それを治すのに大変大きな役割を果たしたのは青森市の石館守三博士だったと、皆さんは誇りを持っていいと思うんです。青森市の誇りなんです。青森市の薬剤師会館という所に行きますと、石館守三先生の立派な胸像があります。その胸像を松丘保養園の前にも建ててくれればいいなど、私も若い時に提唱したことがあるんですけど、皆貧しくて誰も賛成しませんでした。これからでも間に合いますから、石館先生の胸像を建ててくれればいいなど私は念願しています。

先程も申し上げたように、石江の住民が故郷をそつくり寄附してくれて、松丘保養園を建ててくれたお陰で私達は安楽な一生を安心して暮らすことが出来ます。石江から職員の方もたくさん来てます。新城からも来てます。

そういう中で、昭和十一年に大火で皆焼けたこと

があるんです。その上に、新城村から「余所へ行つてくれ」と移転運動が起きたんです。そんな世間から嫌われる嫌な病院を置くのはまかりならんと新城の村会議でそういう運動が起きた時に、新城の郵便局の局長さんが「みなさん、そういうけれども松丘保養園があるために職員の方も採用されるし、郵便物も他の村の郵便局の何倍も取り扱いが多いし、新城駅の人の出入りが今と違つてバスが通つて無い時は必ず新城駅を通つたんです。だから患者が収容される時、新城駅から乗り降りしたから、松丘保養園がある限り駅の出入りも多いんだと、そういう状況で将来必ず、ここに松丘保養園があつて良かったという日が必ず来るから、他へ行つてくれというような移転運動は止めてくれと村の有力者達を説得して歩いて、そしてその運動を止めさせたんです。

そのお陰で私達はどこへも行かずに済んで、ここで安心して暮らすことが出来たと大変感謝しております。先程申した通り、年寄りばかりだといひますけれど、眼が見えなくなつたり手足が不自由になつたり、体が動かなくなつたりしてゐる人もいますけれど、皆さんの父さん達が働いて納めた税金が国に納

まつて、それが予算になつて私達の生活を支えてくれるんです。お医者さんも雇つてくれるし、事務員の方々も雇つてくれるし、お世話する介護員、看護師もみんな雇つてくれるし、そういうお金は皆さんの父さん母さん達が税金で納めたお金で私達は命永らえていることが出来るというので、うちの年寄り達は本当に社会の皆さんに感謝して暮らしています。社会の皆さんというのは、ここでは保養園の中の事は「中」、外のことは「社会」と言つたんです、昔から。社会の皆さんに本当に感謝しながら暮らしているというのが本當の生活です。今日皆さん、園内見学して来たでしようけど洒落た建物で近代的になつてきましたけど、昔はバラックの木造家屋で、雪が沢山降るところですから凄く冬は難儀しました。難儀しましたけど、皆ここに住まわして貰つて良かったなど感謝の気持ちで今暮らしています。ですから、皆さん家に帰つたら父さんや母さんに松丘保養園の皆さんがとても感謝してるとありがたい。どうぞございます、と気持ちだけでも伝えてください。

それから、石江に神社があるんです。石神の。あ





石江の石神神社。側  
石灯籠の向こうに  
の座っている狛犬  
の台座には「昭和  
十六年 北部保養  
院患者慰藉会」と  
刻まれています。



の神社の灯籠側の狛犬は松丘保養園から持って行っ  
たんです。戦争が終わった時に青森署の警察署長が  
早合点してね、保養園に大きな立派な神社があつた  
んです。その時取り壊し命令を下したんです。壊し  
ちゃったんです。その時に、鳥居は三内の村の方に  
行く神社に差し上げて、狛犬は石神社に差し上げ  
て。だから狛犬の後ろ側に「北部保養院患者慰藉  
会」と刻んだのにセメントを塗って見えないように  
してます。ですけど、あの狛犬は松丘保養園から差  
し上げた狛犬なんです。

と云うことで私の話は取り留めもないんですけ  
ど、あんた方のおじいさんが若い時には、映画は戦  
争後は全然観る機会が無かつたんです。だけど保養  
園だけはアメリカから寄贈になった洋画、西部劇と  
か色んな映画が一週間に一回は必ずあつた。三本立  
の映画で石江や新城の人が映画を観るには町まで行  
かなくちゃいけないから、ここに来て一緒に映画を  
観て育った人が沢山いるはずですよ。  
それから、盆踊りも盛んだったんです、お盆のと  
き。太鼓の音すると石江や新城の人達が私達と一緒  
に盆踊りして楽しんでました。盆踊りの三日間  
は。そういう時代もありました。  
石江の青年団が演芸会をやると、それを松丘保  
養園の施設に持って来て私達に演芸をやつて慰問  
してくれたり、歴史を重ねて来ています。  
さきほど言いましたように、私達は本当に村の  
人達に感謝していると、有り難いことです。  
非常に短い取り留めのない話ですが、ここで暮ら  
して皆さんと交わりが出来たという事は嬉しいこ  
とだと思えます。今日は本当にありがとうございます。

次に、私が若いときに作った歌なんです、歌の解説をしなくちゃいけないね。

蒼ざめて待部屋さらぬははと吾れに濡るるま  
で消毒の液は撒かれぬ

私が生まれたのは、福島県の郡山市というところ  
です。田舎です。

その時に小学校五年生で発病して、町の太田病院  
という大きな二〇キロ離れた病院へ診察しに行った  
時の歌なんです。待ち部屋というのは待合室のこと  
だね。太田病院に診察に行ったところが、「あんた  
の子供さんはらい病ですよ」ということで宣告され  
て、治すには、青森にはいいところがあるけれど、  
ただ患者を集めて殺すだけ死ぬのを待っているだけ  
のところだから、あそこは駄目だと。それよりも仙  
台の医学部へ行くと治療して貰えるから大病院へ  
行きなさいと先生が教えてくれたんです。でも本当  
にハンセン病だということが宣告されたものですか  
ら、母親と私と乳呑み児が、待合室から腰の抜けた

ようになって動くことが出来なかつたんです。そう  
しているうちに伝染病だということで消毒剤を撒き  
に来たんです。全部体が濡れるまで消毒されたんで  
す。その時の歌です。

待合室で、貴方のような病気の人間を外に出す訳  
にいかないからとびしよびしよになるまで消毒剤を  
浴びせられたんです。その時の歌です。

癩園と云う限界をひろびろと生きむ吾らに冬  
の陽の照り

冬はね、なかなか陽の照る日が無いんですよ、青  
森は。昔は吹雪が始まると一週間位猛吹雪だったん  
ですよ。その辺の山に木はありませんでしたけど、向こう  
の方（東の方？）には木が一本もなかったんです。

ですから、すごい「たねがす」と云って風が流れ  
る土地だったんです。ここは。酷い気候条件の土地  
だったんですけど、癩園という狭いところだけれど  
も心持ちだけは広く生きようと。冬はなかなか天候  
が良くないところだけど、たまに陽が照ってくるよ

うに必ず私達にもいい時があるんだと希望をもって暮らしていた時の私がまだ二〇代の時の歌です。

味噌を餅に違えて喰ひし旨のことまなこつぶりて想いみにけり

味噌、しょっぱい味噌は勿論食べられるんだけど、間違つて食べた盲人がいたんです。

なぜそういう事が起きたか貴女達は想像出来ないでしょうけど、眼が見えない手の感覚が無い訳ですよ、舌の感覚も無いんですよ。何を食べているんだか味が分からなくなる

そういう時に、「じいさん、これ餅焼いてきたから食べな」と近しい人が置いていった餅を別な皿にあつた味噌と間違えて食べた人がいたんですよ。それ、味噌を舐めながら餅を食べていると思つていて人を見た時にこういう生き方もあるんだなと歌にしたものです。ですから昔はそういう人も居たという事です。何を食べても味がわからない、麻痺してしまつて。それでこういう歌にしたんですけど実際の

話なんです。

ここで亡くなった人はただ漫然と亡くなったのではなく、色んな障害で苦しみながら亡くなったんです。

今はお盆になると、三日間納骨堂の扉を開けて、中を参観させてくれるんですけど、私お盆になると必ず中に入って一人一人のお骨にお参りしてきます。その人達は皆一緒に暮らした人達なんですけど、みな二〇代三〇代で亡くなった人が沢山いるんです。なぜそんなに早く亡くなったかという共同生活のために結核菌が、伝染しやすい結核菌が感染して結核になつて死んだ人が多かつたんです。ですから二〇代三〇代、働き盛りの四〇代の戦後に亡くなった人達の遺骨がみんなそうです。だから健在している人は七〇歳八〇歳の人が多いです。昔は皆二〇歳三〇歳のところで亡くなったんです。そういう時代の歌なんですけど、ご理解して頂けましたでしょうか。

俳句・川柳

木村伯龍

俳句

散歩道 野辺のタンポポ 居場所あり

大輪の ダリア花咲く 郷里路

ネブタ過ぎ 大根種のおとしごろ

降る雪に 怨みはないが 愚痴は出る

焼き締め 陶器の風鈴 癒やす風

川柳

畑にて 汗を拭きつつ 苗談義

物探し 言葉にだして 右往左往

喜怒哀楽 笑顔が一番 明日もある

介護の手 真心通う 言葉がけ

少しだけ 老いをかくして 赤い服

# 2021 集中豪雪

2020年12月30日から襲来した年越寒波で大雪と低温が続き、園内も景色が一変しました。「何十年に一度の大寒波」と予報された通り、降り続いた雪は1月中旬には129cmまで達し、短時間に積もったドカ雪に除雪も追いつかず職員総出で対応にあたりました。



1月3日夜明前  
門柱もすっぽり  
雪の中



職員融雪駐車場も融雪が追いつかず…



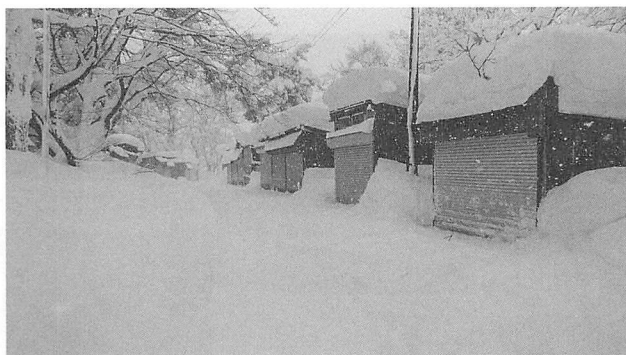
大型ローダー 頼りにしてます！



百年桜に雪の花



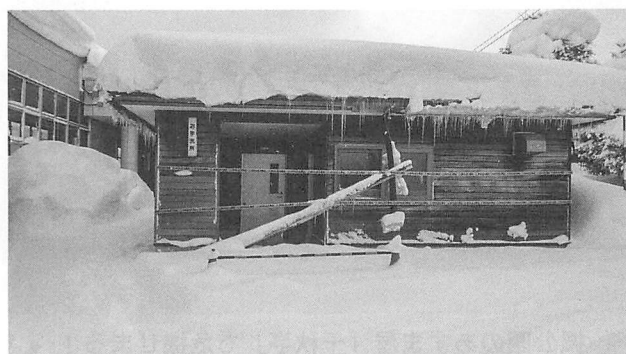
雪に埋もれた楓林寺



雪でつぶされそうな入園者車庫群



雪降ろししても数日でこの通り



積雪で破損した東側公衆トイレ



給食倉庫が倒かい（左奥）  
腰まで積もった雪降しは重労働



楓公園のあずま屋「千秋亭」も危機せまる！



# 親分

中央センター2階 介護員 木村健一

昭和六十一年十二月から平成三年二月まで、五十一ヶ月間のバブル時代に終止符を打ち、新たな時代への始まりとなる丁度その年の平成三年四月一日、月曜日の朝八時三十分、希望と不安を抱えた作業手の俺は初出勤を迎えていた。

採用初日の午前中は、新採用者のオリエンテーションや各職場に挨拶回り等を行っている、あつという間にお昼休みの時間となった。

現在の福祉室棟の縫工部があるところが作業手と男子介護員の休憩室だった。

見知らぬ顔がズラリと並び自己紹介を軽く済ませ、て弁当を食べた。

当時、八人の作業手が二人ずつのペアを組んでシフトが組まれていた。俺の相方は「作業手の親分」

だった。その年に採用された作業手は三人で、他の新人二人は同世代の相方とペアを組んでいた。俺は内心「不公平だな…」と感じていたが、誰にも言える訳もなかった。後にこの理由が分かるまで十数年を要することになった。

不慣れた昼休みを終え午後からの仕事は、他の作業手はみんな一緒に行動していたが、何故か俺だけ別メニューで、福祉室の事務助手の前田さんが付き添って園芸の草取りの畑に行った。

畑では、数人の入所者がこちらを覗き挨拶してくる。慌てて俺も「新人の作業手に採用された…」と、挨拶もままならないうちに「早ぐう草取れ」と味のある白いタオルでほっかぶりをしている「親分」らしき入所者が呟いた。前田さんは、じゃあ後頼むね。

とその「親分」らしき入所者に声を掛け、その場を去っていった。

俺は「親分」らしき入所者の側に駆け寄って「宜しく願います」、**「雑草はどれですか？」**等と聞きながら草むしりをした。

はじめは、ほっかぶり が似合いすぎて、表情がハッキリと見えなかつた事もあって、とつつきにくいや人かなと外見で判断していたが、意外や意外、作業をしていると言葉数は少なかつたが同じ匂いの人種かなと感じていた。

二時間ほど作業していると、「親分」が「終わりだ。戻っていいぞ。」と畑のすぐ横にある小屋に入り帰り支度をしていた。

俺は何処に戻ればいいのか分からなかつたが、とりあえず福祉室の前田さんのところへ行って、程なくしてみんなに合流することができた。あつという間の初日だったが、今でも印象深く記憶に残っている一日だった。

当時、保養園には三八一人と多くの入所者が生活を営んでいて、売店から福祉前通りの朝はかなりの

賑わいをみせていた。行き交う人々の中でも一人だけ異様なオーラを放つ人物がいた。背丈は小柄だが顔つきは正に猛獣のライオンを思わせるかのような迫力だった。

先輩に誰なのかを聞くと、なんと自治会の会長だと言ふことが分かつた。

福祉前通りから納骨堂手前の右側に作業小屋があり、そこに向かう途中、行き交う人々に挨拶をするが、「自治会の親分」だけは返事があるわけもなく、目も合わせず何事もなかつたかのように風を切つて通りすぎていった。

当時は、自治会の三役がラウンドしてセンターや病棟に向いては、その役割と迫力を誇示していた。

採用から数週間が経つた頃、福祉の前田さんに呼び出された。

何事かなと不安を感じながら行くと、「あのや……言いくいんだけど、歩き方何とかならないか？」

「ちよつと自治会から……」と言ふのです。何のことやら？えっ！歩き方？と聞き直すが、前田さんは頭をコクリと数回。自分では生まれてこのかた歩き方

を注意されたことは一度も無いし、普通の人間なら歩き方を注意されることはまずないだろうと思う。でも、あの「自治会の親分」からの指令を前田さんは言わざるを得ない状況で俺に言ったのだから、歩き方をどのように直せば良いかは別に、取り敢えず「はい、分かりました。気を付けます。」と答えた。

またある日のこと、今度は髪型に指導が入った。

またか……。金髪に染めていたわけでもないが、「親分」には好ましくなかったようだった。すると、またある日には作業着の前ボタンを開けていることに指導が入った。歩き方、髪型、そして作業着、自分の中の何かがプツンと切れた。と同時に前田さんに向かって「何でいつも俺ばっかり！」と発していた。その勢いは止まらず、「俺が自治会に行って話してくる！」と言うと、前田さんは「我慢するしかないんだ。やめとけ……。」と苦渋なおもむきで俺に話した。

それからは、前田さんが上手に立ち回ってくれたのか「指導」は言われなくなった。

二年が経つと、洗濯夫への職種変更があった。

チャンス到来。賃金職員で採用された行（二）職の俺たちは、定員内職員になるために定員内職員がある職種に行く事が重要で、その職場で退職者が出れば後補充で定員内職員になることを願っていた。

それから十一年、作業手からを含めて十四年目で定員内職員へ採用が決まったが、大きな問題が発生していた。

政府の方針で国家公務員の「アウトソーシング」、簡単に言えば、介護員以外の行（二）職には退職後補充はしないとすることが閣議決定されており、介護員への職種変更にならざるを得なかった。

洗濯夫の十一年間で、介護員の大変さを十分理解していたので、本当は行きたくはなかったが、定員内職員になるためだと諦めるしか道はなかった。

当時、入所者の平均年齢も若く、自力で元気に生活をしている入所者が多かった。少しでも体調を崩すと直ぐに病棟へ入室し、介護の手を必要とすることはそんなには多くなかった。

介護員は半年位でセンターの配置替えがあり、中でも新人の介護員は三ヶ月程で配置替えが行われて

いた。

俺が最初に配属されたのは4センターで四つのセンターの中でも一番入所者の数が多いセンターだった。

園内においても顔を知っている入所者もいれば、大物洗濯の名前でしか知らない入所者や噂になつて入所者と様々だった。

その4センターに、「明月寮の親分」と「朝霧寮の親分」がいた。良くも悪くも、「明月寮の親分」には嫌われて、「朝霧寮の親分」には好かれて、忙しい毎日をこなしている、あつという間に三ヶ月が経ち2センターへ配置替えになった。

「2センターの親分」は、十三年前に見た猛獣のオーラを醸し出していた「親分」が生活をしていた。あの頃とは少し違い、自治会の大役から一線を退いていたこともあつてなのか、お歳を召したからなのかは分からないが、挨拶や少しの会話が出来るようになって、俺にとっては奇跡としか言いようがなかった。

そんなある日、「親分」が晩酌用のつまみにイカの

刺身を補食で頼み、いつものようにイカ素麺を作つて持つて行くと、「まえからお前に話したいことがあつたんだ。そこに座れ。」と言われたからには良い想いはしなかった。またあの時の「指導」が頭を過ぎった。

不安な気持ちで言われたとおりに座り「親分」を見ると、酒は飲んでいたものの少し下向きのまま話し出したのだ。

固唾を飲んで話しを聞くと、「俺は大きな勘違いをしていた。お前の事はここに採用される前から噂で聞いていた。それを鵜呑みにしていた。すまない。」と言葉少なに謝罪されたが、俺の頭の中では走馬燈のように十三年前、採用時の嫌な出来事の場合が映し出されたと同時に、点と点が繋がつて当時の出来事を理解することができた。

ブルツと震えトリハダが立った。「親分」のオーラが優しい色に変わつて見えた。その日を境に笑顔で会話することが出来て本当に嬉しかった。あの時の「指導」が、思い出に変わつていった。

次の配置替えでは3センターだった。やはりそこ

にも「親分」がいたが、今までとは性別が違い「女性の親分」だった。介護長をはじめ、介護員だけではなく看護師も一目を置いて関わりを持っていた。

俺も初めは緊張していたが、何かが違うことに気付いた。「親分」は俺に優しくかったのだ。

他のスタッフには布団の畳み方や話し方等、色々な事に対して厳しかったが、俺にはそんなことを一切言わなかった。

その事が他のスタッフに知れると、俺に「親分」の担当を任せたり交代したりと言うことが多々あった。こうなると介護は面白い、人との交わりは奥が深い分やりがいもあるという気持ちになっていた。

次の配置替えて1センターとなって、これで全センターを一周することが出来た。

やはりここにも「親分」がいた。今度の親分は「盲目の親分」だった。この「親分」は筋道が通っていないと嫌なタイプで、曲がった事が嫌いな人だった。日中の殆ど短波ラジオを聞いていて、様々な情報を得て自分の楽しみを作っていた。

その年の正月に事件は起きた。正月休みを利用し

て記者の突然の訪問があったのだ。

「親分」はいつもなら来客に失礼がないように細心の注意を払って、自分なりに組み立てて用意をする人だったが、今回に限ってはその範疇外だった。

たまたまその日が勤務で、更に当日の担当でもあった俺は「親分」に呼び出された。「夕食の手配を頼む、来客に失礼がないように寿司にしてくれ。」と言われ、直ぐさまいつもの寿司屋に電話したが、なんと正月休みだったのだ。他の寿司屋も仕出し屋も休業日だと言うことを「親分」に伝えると、「困ったな：。」とそれ以上の引き出しを持ち合わせていない様子だった。

俺は、正月休みだから他にどこか営業していないかと考えていると、スパーがまだ営業時間内だったので、寿司ならあるのではないかと思い、そこで家族に連絡してその事情を伝え協力を得ることが出来た。「親分」に説明すると大喜びして「ありがとう、助かった。」と笑顔が覗かれた。

寿司屋ほど上等ではないものの、それなりに良いネタの寿司だったこともあり来客にも喜んでもら

えた。

その日以来、義理堅い「親分」とは親密な関係をつくれたの言うまでもありません。

松丘保養園に採用されてから、二十八年が経ち様々な入所者と関わりを持ち、いろいろな勉強をさせて頂いた。人の絆をどのようにして構築していくか、常に相手の気持ちになって考え行動することの大切さを学んだ。

現在、中央センター2階に勤務しているが、一昨年十二月に1センターと統合して入所者は新たなセンターでの生活が始まっている。

その中に、二十八年前の初日にお世話になった「草取りの親分」がいた。あの時は、ほっかぶりが似合うおじさんだったが、今では脳梗塞を数回と心不全を患ってセンターと病棟を往復し、辛い生活を余儀なくされている。しかし、会って会話をすると笑顔を見せてウンウンと頭を振ってくれて会話が困難でも仕草で示してくれて本当に嬉しい一時だ。

以前、「親分」にこんな会話をしたことがあった。

「俺が採用された初日に、園芸の手伝いをしたの

を覚えている？」と聞くと、満面の笑みで「なんだあ〜おぶおいであ〜」と言ってくれた。

やっぱり俺の「親分」だと再認識した。

「頑張れ！親分！」

### 人事異動

#### 【退 職】

介護長 前田 英明（令和3年1月31日付）

## ◆ 社会交流会館だより ◆

### 山のあなたに金鉱山？

社会交流会館 学芸員 澤田 大介

みなさん、あけましておめでとうございます。こ  
ともしもよろしくおねがいいたします。

この度の年末年始は、どのように過ごされました  
でしょうか？ 私は地元の北海道へ帰省したい気持  
ちもありましたが、素直に青森市内にとどまってお  
りました。あの目の前が真っ白になるような、猛吹  
雪を見ますと、コロナ禍のステイホームも関係無し  
に、家に居て正解だったなあ、と変な話ですが、つ  
くづく感じていました。

そのステイホーム中、私は家族宛の年賀状をつ  
くっていました。どうにか元旦までには投函できた  
ので、松の内には間に合ったようです。そのように  
呑気な事をしていた一方で、ちよつとした事件があ  
りました。リビングにあるコンセントがショートし  
てしまい、一部のコンセントが使えなくなったので  
す。その一部というのが、ちょうどストーブと給湯

器につながるコンセントでして、給湯器は別のコン  
セントに繋ぐことで使えるようになったのですが、  
ストーブはどうしようもなく、三が日の最終日は、  
ほぼ暖房無しで過ごしておりました。

不幸の先払いと思えば良いかもしれませんが、年  
明け早々に、このような目に遭うとは思いませんで  
した。

前回の『甲田の裾』で「エアコンや電気ストーブが  
ある現代はいかに豊かか、考えさせられます」と書  
きました。が、ストーブの有り難みというか、当たり  
前だった現代の豊かさが、身に沁みた年末年始でした。  
さて、前回に引き続き、「炭焼き」をテーマにし  
て書くのですが、今回は松丘の炭焼きから少し寄り  
道して、調べる中で見つけた津軽の伝説、「炭焼き  
藤太」の伝説について書いてみようと思います。

「炭焼き藤太」の伝説というのは津軽に限らず、全

国に存在するようです。その炭焼きの名前も「藤太」の他に、「小五郎」や「吉次」などバリエーションがあり、職業も「炭焼き」に限らず、「芋掘り」や「蕪焼き」などあります。これらの伝説には共通したあらすじがあり、それらをひとまとめにして、「炭焼長者」と呼ばれています。「炭焼長者」は昔話としても読まれていきますので、もしかしたら、こちらの名前が聞いたことがある人がいるかもしれません。

「炭焼長者」のあらすじは次の通りです。

縁遠い殿様の娘が、神様に祈願すると、山奥の貧しい炭焼きが夫となる人だ、とのお告げがある。娘はその男を訪ね、頼み込んで嫁になる。嫁が持参した小判を夫に渡して買い物に行かせると、夫は途中で、水鳥めがけて小判を投げてしまう。嫁が、手ぶらで帰った夫から話を聞いてあきれ、小判の値打ちを言つて聞かせると、夫はそんなものはいくらでもある、と言つて炭焼きのかまどに嫁を連れていく。そこには、たかさんの小判があり、夫婦は長者になる。

(「初婚型」)

(引用：『日本昔話ガイドブック新版』)

では次に、津軽に伝わる「炭焼き藤太」の伝説に

ついて、『東津軽郡町村誌』という郷土誌を参考に、書いてみようと思います。史実や「金売吉次」の伝説(源義経が奥州に逃げるのを手伝った人物)ともまざり、少し雰囲気違います(読み方がわからない人名を、ふりがな無しで表記しているのはご了承ください)。

時は鎌倉時代の前期、寛喜元年(一二一九年)。

津軽氏の祖先秀栄の孫にあたる秀直には、藤太という子がいました。当時の津軽地方では、藤崎の安東氏という豪族の勢力が強く、その侵略を受けて秀直は戦死してしまいます。藤太はまだ幼かったので、乳母に連れられ、新城の豪族であり、藤太の姉夫でもある橘次信次の所へ逃れます。この橘次は戸建澤から金を採掘し、京阪地方に輸出することで財をなしておりました。

藤太は橘次から許しを受けて炭焼きをします。藤太は自分が貴人であることを隠したので、村の人は彼のことを炭焼き藤太と呼びました。

藤太は成長すると、身長は六尺五寸(二m弱)になり、武勇にも優れました。そのような彼は、「征夷將軍義経」(源義経)の事であれば既に亡くなっている



はずですが)に謁見し、頼秀の名をもらい、「左衛門尉(天皇のすむ所を護衛する役職)を任せられました。頼秀の子、秀季も藤太と名乗り、金三千枚を「襟裡」(天皇の禁裡のことか?)に献上しました。今ではこの場所は、金ヶ澤と呼ばれています。

伝説に登場した金ヶ澤、もとい「戸建澤」は、戸門と鶴ヶ坂のあたりに位置するようで、これに由来する「戸建澤神社」が鶴ヶ坂に残っています。しかし、伝説にあるように今も金が取れるわけではないようです。参考にした郷土誌が書かれた時点(昭和十八年)で、金鉱からは清水が湧き出るようになり、それが諸病に効き目があるとされている、と書かれています。「炭焼き藤太」の伝説はこれの他にも、鎌倉幕府五代目執権だった北条時頼が津軽に立ち寄り、藤太に「秀頼」と名付けるといふ種類などもあります。ところで、「炭焼き長者」の話では藤太のお嫁さんが登場しました。むしろ、お嫁さんの方が昔話の主人公のようでしたけど、もちろん、「炭焼き藤太」にもお嫁さんは登場します。ただ、お嫁さんはお嫁さんで、また別の伝説になっています。

近衛関白である基通公には、福姫という姫君がい

ました。ただ容姿が良くなかったので、結婚する人が見つかりません。そこで福姫は陰陽師から助言をもらい、夫を探しに浪岡まで来ました。夫になる人がこのあたりに居るだろうと考えた福姫が、近くの小川で顔を洗うと、たちまち、美人になりました。福姫はこの後、藤太のお嫁さんになるようです。福姫が顔を洗った小川は「美人川」と名付けられて、今でも浪岡に「美人川公園」として残っています。

松丘どころか、炭焼きからも離れて津軽の伝説になつてしまいました。行き当たりばつたりな調査ですが、次回は時間を現代まで引き戻そうと思えます。「また炭焼きなの?」と言われてそうですが……それでは!

#### 参考文献

東北通信社『東津軽郡町村誌』(一九四三)。

稲田浩二・稲田和子編著

『日本昔話ハンドブック新版』(二〇一〇)三省堂。

柳田国男『日本の昔話と伝説 民間伝承の民俗学』

(二〇一四)河出書房新社。

自治会日誌

○印 園関係

令和2年10月中

1日 10/1付採用職員1名 挨拶に来訪

企画運営会議

21日 青森地方事務局に於いて、人権擁護委員研

修で佐藤会長が講話

22日 第2四半期自治会会計業務監査

除雪計画打ち合わせ

27日 第1回執行委員会

29日 「らい予防法による被害者の名誉回復及び

追悼の日式典」のライブ配信を視聴

11月中

1日 青森市長選挙・青森市議会議員補欠選挙

4日 企画運営会議

5日 作業運営委員会(作業運営規程の改定について)

6日 桜の根の治療

11日 令和2年度物故者慰霊祭

13日 第2回執行委員会

18日 甲田の裾編集局企画運営会議

12月中

3日 企画運営会議

4日 第3回執行委員会

25日 倫理委員会

28日 園幹部が年末の挨拶に来訪

○御用納め

令和3年1月中

4日 年詞交歓

7日 企画運営会議

14日○国立ハンセン病療養所施設長連絡会議(Web

会議)

25日 第3四半期自治会会計業務監査

30日 盈進学園(広島県)ヒューマンライツ部生徒

7名が「ハンセン病問題に関するシンポジウ

ム」で発表の為、佐藤会長にオンライン取材

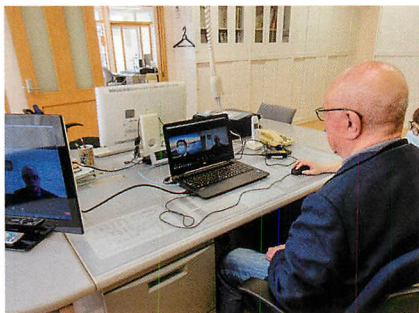
編集後記

◇今号は特に原稿集めに苦勞しましたが、故・滝田十和男さんに助けられて何とか発行することが出来ました。入園者の投稿がゼロに近い状態で、機関誌の意義はあるのか？見直す時期に来ているのかも知れません。

(石田)

# 園内の出来事

令和3年 新しい形の会議始まる!



コロナ感染症対策の為、様々な交流が中止となっていました。1月30日自治会佐藤勝会長が広島県の<sup>えいしん</sup>進学園の生徒7名からオンライン取材を受けました。また、1月26日にはオンラインでの支部長会議（2月25日実施）に向けてのテストが行われ、コロナ禍での交流が見直されてきています。（写真は職員と共にテストを行う佐藤勝自治会長）

令和3年2月8日～12日 青森県ハンセン病パネル展



毎年6月に開催され、昨年はコロナウイルス感染症予防対策の為中止となっていた「ハンセン病パネル展」が県庁北棟で開催されました。今回はコロナ対策の為、職員を配置しませんでした。 「110周年記念会」の発表を中心に説明がなくても分かりやすい展示を行いました。

# 国立療養所松丘保養園要覧

松丘保養園は国立のハンセン病専門の療養所で、創立してから今年で112年の歴史があり、ハンセン病患者の医療と福祉を事業としております。

所在地

青森市大字石江字平山十九

園 長 横 山 慎

保有敷地 二二七、九六六平方メートル  
(七二、一一〇坪)

建て面積 二二三、八一二平方メートル  
(七、二一六坪)

延べ面積 二九、四七三平方メートル  
(八、九三一坪)

## 交通案内

□電車の便

1. 東北新幹線・新青森駅下車

(車で約3分)

2. 奥羽本線津軽新城駅下車

(車で約5分)

□バスの便

1. 青森市営バス西部営業所行

2. 弘南バス浪岡・五所川原・黒石

行き 共に松丘保養園前下車

□航空機の便

青森空港より(車で約30分)

□高速自動車道の便

青森ICより(車で約5分)

□なお保養園に隣接して桜の名所三内靈園(1km)と国の特別史蹟指定の三内丸山縄文遺跡や県立美術館(2km)等があります。

発行所

一般財団法人 松丘保養園松桜会

所在地

〒〇三八―〇〇〇三

青森市大字石江字平山十九番地

電話(017)(788) 〇一四五・〇一四六

発行人 横 山 慎

編集人 甲田の裾編集委員会

印刷所

青森市本町二丁目十一―十六

青森オフセット印刷株式会社

電話(017)(775) 一四三二番